

平成30年度 学校経営計画・学校評価			□4月提出 □10月提出 ■3月提出			高知西 高等学校		
高知県の教育の基本理念			全・定・通			学校関係者評価		
(1) 学ぶ意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく子どもたち (2) 郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人材			取組の方向性			【学力の向上】 評価 【 B 】 学力向上の取組は、十分でない点もあるが、1、2年とも安定した成績であり、大学進学についても成果をあげてゐる。家庭学習の定着は、小中高連携した取組が必要である。スマートフォンの使い方も影響がある。・読書にては、現在は本に限らず、新聞や電子書籍等があるので、図書館の本だけに限定しなくてもいいのではないかな。活字離れが進む中、読書好きにつながる仕掛けづくりも必要である。		
目指すべき姿	学校像	「HARD SPIRIT 貫徹精神」の下、幅広い知識と教養を身につけ、逞しく豊かな心身を培い、郷土や我が国さらには国際社会の発展に貢献する志を涵養し、国際人として大局的な視点に立って行動できる人間の育成を目指す学校。	目指すべき姿を実現するための取組等			【社会性の育成】 評価 【 B 】 部活動は加入率が高く、全国大会などへの出場を果たす部活動が多くなっている。グローバル探究をはじめとするSGHでの探究学習により、社会性も育っている。生徒が自分の進路実現につながるような取組も進めてほしい。できるだけ授業時間内に活動するなど、探究活動の負担が一部の生徒に偏らないような工夫が必要である。		
	生徒像					【チーム学校】 評価 【 B 】 校長を中心に教職員が協力し合って教育活動に取り組んでいる。SGHをはじめとする探究的な学習は、国際中学校・高等学校でのIB教育は関係性が高いので、しっかりと連携を取って目指す教育の実現に向けて頑張ってほしい。		

《重点項目：生徒に対する取組》

	育成を目指す資質・能力【P】	評価指標	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	年度末評価【C】	見直しのポイント【A】
学 力 の 向 上	○基礎的・基本的な知識及び技能 ○思考力、判断力、表現力 ○主体的に学習に取り組む態度(学習習慣を含む)	【1年】 ①学習時間 90時間/月 ②週明けテストの合格率100% ③国・数・英3教科総合の平均点偏差値50.0以上 各教科の平均点偏差値53.0以上 図書貸出数1000冊/年 【2年】 ①学習時間 100時間/月 ②国・数・英3教科総合の平均点偏差値50.0以上 各教科の平均点偏差値53.0以上 ③図書貸出数1000冊/年 【3年】 ①国公立大学合格者100名以上	・宿題の実行と提出を確認し、学習習慣の定着を図る。 ・手帳の効果的な活用方法を学び、タイムマネジメントの能力を育成する。 ・学習時間調査を行い、個別指導を実施する。 ・教科の取組を学年団でも共通認識を持ち、連携を強化する。 ・学年通信を発行し、生徒の取組を評価するとともに、学習意欲の向上を図る。 ・グローバル探究でリサーチペーパーを作成することにより、考える力や判断力、表現力の向上を図る。 ・リサーチペーパーの作成を通して、図書の活用を推進する。 ・推薦Ⅰ・AOの面接・小論文指導を全教職員で対応する。	B 評価時期：1学期末(夏季休業中には中間評価について職員会議を実施) ・家庭学習時間(1日当たり) 1年：定期試験前 70分 定期試験中 148分 2年：定期試験前 86分 定期試験中 208分 ・週明けテストの合格率 1年 国語 1回目 62.9% 2回目 86.8% 英語 1回目 90.7% 2回目 89.6% 2年 国語 1回目 86.8% 2回目 95.0% 英語 1回目 95.4% 2回目 92.5% ・国・数・英3教科の平均偏差値(7月記述結果) 1年 3教科平均 50.5 国語 51.7 数学 50.5 英語 49.3 2年 3教科平均 50.7 国語 51.2 数学 51.1 英語 50.1	C ・家庭学習時間(1日当たり) 1年：定期試験前 66分 定期試験中 153分 2年：定期試験前 85分 定期試験中 209分 ・週明けテストの平均合格率 1年 国語 78.4%(7回分) 英語 74.3%(6回分) 2年 国語 88.3%(7回分) 英語 84.9%(6回分) ・国・数・英3教科の平均偏差値(1月記述結果) 1年 3教科平均 50.2 国語 51.6 数学 49.0 英語 50.3 2年 3教科平均 48.7 国語 50.0 数学 48.5 英語 49.8 ・図書貸出数 1年 494冊 2年 250冊 3年 413冊 ・国公立大学合格者数 86名(3月22日現在)	・学習意欲の向上を図るため、進路目標の早期の決定を促すとともに、進路のロールモデルを提示する機会を増やす。 ・教育プラットフォームのClassiを活用して学習の自己管理できるように指導する。 ・読書への関心を高める取組を図書委員会を中心に進めるとともに、グローバル探究における図書館の利用を推進する。 ・模擬試験の分析結果を授業に反映する。
社 会 性 の 育 成	○コミュニケーション能力(かかわる力) ○キャリアデザイン能力(やりぬく力)	【1年】 ①グローバル探究Ⅰへの積極的・協力的な参加 ②社会貢献活動や自己研鑽活動に取り組む生徒の割合30%以上 ③政治的教養として、社会の課題を見出し、協働的に追及し解決する態度を養う。 【2年】 ①グローバル探究Ⅱへの能動的・積極的な参加 ②社会貢献活動や自己研鑽活動に取り組む生徒の割合50%以上 ③政治的教養として社会の諸課題について多面的・多角的に考察し、公正に判断する力を養う。 【3年】 ①社会貢献活動や自己研鑽活動に取り組む生徒の割合70%以上 ②政治的教養として社会の課題を見出し、探究し解決する力を養う。	【1年】 ・本県の地域課題を調査し、食を通した地域創生モデルをグループで作り上げ、企業や地域の方などに発表する。 【2年】 ・国連が提唱する世界の諸課題SDGsに関連するテーマについてグループで調査・研究しリサーチペーパーを作成し、成果発表会等で発表する。 【3年】 ・生徒が各自でテーマを設定し、個人で研究し、リサーチペーパーを作成する。 【全体】 ・学校が主催する国際シンポジウムやシンガポール大学が主催するグローバルリンク・シンガポールなど校内外で発表する。	B 【成果】 ・県内リサーチや夏季休業中のアクションプラン等の実施を通して、校内だけでなく企業などの外部の方とのコミュニケーション力や質問力が向上した。(1, 2年) ・全員が期日まで個人でリサーチペーパーを完成した。(3年) ・国際シンポジウムでは活発な質疑が行われた。シンガポール大学で開催されたグローバル・リンク・シンガポールへの参加をはじめ、エコミクス甲子園等へも積極的に参加する生徒が増加した。 【課題】 ・コミュニケーションが苦手な生徒がスムーズにグループ活動に入ることができる支援方法の開発	B 【成果】 ・グローバル探究等の活動を通しての社会貢献の意識の高まり 全体 83.7% (昨年度82.6%) 1年85.5% 2年84.7% 3年88.4% ・問題発見力や解決力が身に付いた。 発見力 全体 83.7% 解決力 全体 81.7% ・SGH成果発表会では1年生のポスターセッション、2年生代表の発表とともに外部からもレベルが向上したとの評価をいただいた。 ・グローバル探究で身に付けた力を成果を活かす推薦・AO入試を志願する生徒がSGH事業実施以前(平成28年度)と比較して増加した。 平成28年度54名、平成29年度70名、平成30年度67名 【課題】 ・実際に自主的に社会貢献活動や自己研鑽活動を行った、または計画を立てている生徒の割合が社会貢献の意識と比較すると48.0%と低い。	・グローバル探究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの探究領域と各教科の関連性を見極め連携することで、探究と教科指導を可能な限り融合する。そして、学校全体での協力体制を強化する。 ・校内研修の実施等による教員の指導力の向上を図る。 ・社会貢献活動や自己研鑽活動に生徒がより取り組めるように、情報提供やサポート体制を更に充実する。

《チーム学校：教職員が取り組む項目》

	取組のねらい【P】	評価指標	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	年度末評価【C】	見直しのポイント【A】
授業改善	主体的・対話的で深い学びにつながるとともに、進路実現に必要な学力を身につける授業の実現	学校評価アンケートにおいて「授業を通して学力が身につくと思う」の回答85%以上 「家庭学習に十分に取り組んでいる」の回答60%以上	・グローバル探究を通して、探究活動を実施する。 ・教科会を定期的に行い、効果的な教授法等を共有する。 ・教科担当による面談を実施する。	B ・グローバル探究は現在のところ計画に従って順調に進んでおり、生徒の探究活動は積極的に行われている。 ・教科会は定期的に行っており、生徒の学習状況が共有されている。 ・教科担当による面談週間を予定している。	C 学校評価アンケートにおいて「授業を通して学力が身につくと思う」の回答84.4% 「家庭学習に十分に取り組んでいる」の回答52.5%	・グローバル探究の評価の仕方など、生徒の学習意欲につながる取組を改善する。 ・教育プラットフォームClassiを活用した学習時間の自己管理を推進する。
生徒理解 生徒支援	生徒が生き生きと学校生活を送ることができる環境や体制の充実	皆勤者の割合50% 学校適応1年100% 学校評価アンケートにおいて「入学してよかった」の回答90%以上	・入学時の対応のため、中学校への聞き取りの実施 ・高校生活応援プログラムの実施(4月) ・定期的な校内支援委員会の実施(毎週) ・高校生活についてのアンケートの実施(5月、11月)	B ・皆勤率 1年 210人(74.7%) 2年 195人(69.1%) 3年 167人(59.9%) ・学校適応 1年 長期欠席者1人(48日) ・高校生活についてのアンケート(5月) 「入学してよかった」の回答 89%	B ・皆勤率 1年149人(53.6%) 2年 129人(46.1%) 3年 124人(44.4%) ・学校適応 1年 長期欠席者2人(適応率99%) ・高校生活についてのアンケート(5月) 「入学してよかった」の回答 89%	・日ごろから規則正しい生活を送ることの大切さを集会などの機会に呼びかける。 ・チーム学校として生徒支援に継続して取り組む。
教育環境 の充実	生徒の学習環境の整備・充実が常に図られている 安心・安全な教育環境が整っている 防災用品の充実・管理	学校評価アンケートにおいて 学習や部活動のための環境整備に対する保護者の満足度70%以上 施設・設備に関する生徒の自由記述での改善要求10件未満	・効率的に予算を執行し、ハード面の整備を充実する。 ・校舎の改修工事に關して、定例会の中で、業者との連絡を密にし、工事情報を適切に生徒・教職員に知らせる。また、騒音など授業の影響ができるだけ少なくなるように調整する。	B ・校舎の改修が進むとともに、必要なハード面の整備を進めている。 ・工事に当たっては、定例会を開催するとともに、授業等への影響を最小限にとどめるために必要な情報は適宜業者と共有している。	B ・学習や部活動のための環境整備に対する保護者の満足度68.5%	・来年度も工事が継続するため、予算の効果的執行・工事情報の適切な連絡等を含め、安全対策に万全を期して進める。
学校設定 項目	英語運用能力の向上と国際交流活動の推進	【1年】 英検準2級：普通科50%以上、英語科100%取得 英検2級：英語科20%以上取得 各種コンテスト入賞 将来にわたって国際的な視野でグローバルな地域課題を解決したいと考える生徒の割合30%以上 【2年】 英検準2級：普通科80%以上取得 英検2級：普通科10%以上、英語科50%以上取得 英語ディベート全国大会出場 将来にわたって国際的な視野でグローバルな地域課題を解決したいと考える生徒の割合50%以上 【3年】 英検2級：普通科20%以上、英語科100%取得 英検準1級：3名取得	・年1回以上英検に挑戦するように指導するとともに、1年生については1回分の受験料を年度初めに徴収する。 ・2次試験対策を年間計画に位置付けて、授業の中でも行う。 ・都道府県又は全国規模で実施されるスピーチコンテストやディベート大会等の情報共有や参加奨励、開催時期に合わせた適切な指導を行う。 ・1年次は、実践的な英語運用能力を身につけるため、多読・多聴・多話・多書を用いてバランスよく4技能の伸長を図る。 ・2年次では教科書を活用した2次試験対策を実施する。 ・3年次では、センター試験との共通点を示し、センター試験の学習をするとともに、英検に対応できる英語運用能力を養う。	B ・英検準2級 1年 普3名(1.25%) 英6名(15%) 2年 普188人(78.0%) ・英検2級 1年 英1人(2.5%) 2年 普2人(0.8%) 英20人(50%) 3年 普50人(20.8%) 英38人(95%) ・英検準1級 2年 1人 3年 0人	B ・英検準2級 1年 普89名(37.1%) 英36名(90.0%) 2年 普214人(89.2%) ・英検2級 1年 英6人(14.6%) 2年 普26人(10.8%) 英30人(75.0%) 3年 普54人22.5%) 英38人(95%) ・英検準1級 2年 2人 3年 2人 ・高知県英語ディベート大会、高知県国際教育生徒発表会、高知県英語弁論大会プリベアード部門、よさこいカップ(英語学習入門期ディベート大会、県立大学日本文化プレゼンテーションコンテスト、ジョン万次郎スピーチコンテストなど他6つの事業に参加。	・英語の授業の中で計画的に検定対策を行ったことは効果があったので、継続して行う。 ・ICTを活用した英会話など、4技能をバランスよく伸ばす取組を推進する。